実践報告2024

社会教育演習（YC）
就活ライブラリー！

第１弾　～先輩に聞く～

日時：11月12日・19日　火曜日・１限
場所：横浜キャンパス　20号館
企画運営：３年　９名
ゲストスピーカー：４年　７名
〇内容

４年生の先輩方をゲストスピーカーとして迎え、一人の先輩につき５～６人のグループを作り、座談会形式で行いました。20分×４クールでローテーションを組み、全員の先輩方のお話を聞くことができるように構成しました。就職活動を始めたばかりの３年生に向けて、工夫した点や力を入れたこと、（公務員に内定した先輩方からはモチベーションの保ち方や勉強法などについて、）アドバイスをいただきました。

企画者側からの視点

私たちは、進路をきめて就活を終えた4年生から就活に関しての話を聞き、不安を抱えこれから進路実現に向けて進んでいく3年生の不安を解消し、先輩の経験を活かすことを目的として、今回の就活ライブラリーを開催しました。今回の就活ライブラリーの企画で工夫した点は、誰にお願いするかと時間配分、初日の座談会方式を採用したという点です。企画をたてて行く中で難しかったのは、どの先輩をお呼びするのかという事と、時間配分を考える事でした。公務員に内定した人、企業に内定した人の人数比をどうするか、その上で誰にお願いするのかという事は最初の課題でした。しかし、今回は誰がどのような進路に進んだのかはこれまでの繋がりで知っていた部分と、先生から教えていただいた為、その点はあまり苦労なく進めることができました。（法学部３年　O.K）

企画者側からの視点

緊張や不安もある中、企画メンバー一同、講演が無事成功し安心しました。一方でいくつか反省点も挙がりました。
「グループワークの時間がもう少しあっても良かった」
「質問者を匿名にしなくても良かったのかも」
「休憩を入れるタイミングが良かった」
「slidoを活用して質問が見える化でいたことで、回答しやすさがあった」
これらの反省点はいつか私たちがイベントや企画をするときの参考にしたいと思います。
イベントの企画をすることはチームの連携が重要であり、イベント当日まではいかに計画性を持って動けるかが、イベント当日はいかに臨機応変に動けるかが肝となってくると感じます。
今回学んだ経験が次のイベントや講座へとつながっていければと思います。
(国際日本学部４年　I.C)

第2弾　～企業で働く社会教育士に聞く～

日時：12月３日　火曜日・１限
場所：横浜キャンパス　20号館
企画運営：３・４年　4名
ゲストスピーカー：石田智彦氏（日本青年館）
・志田千帆氏（NPO法人マナビエル）
〇内容

石田さんの自己紹介とともに社会教育に必要な考え方などを共有から始まりました。その後、「あなたが日常生活において社会教育だと思った瞬間は？」という問いが投げかけられ、参加者は４人１組になって１０分程度各々が考える社会教育だと感じた瞬間を共有し、全体で意見交換をしました。休憩後、石田さんとファシリテーターの対談。事前に用意していた質問を軸に話を展開していきました。
最後に、spの場で参加者の質問を受けられるslidoを使った質疑応答を行いました。

第3弾　～ワークとライフ両キャリアの両立～

日時：12月10日　火曜日・１限
場所：横浜キャンパス　20号館
企画運営：３年　6名
ゲストスピーカー：佐々木聖嬰（白聖嬰）氏
（神奈川大学卒業生・横浜市役所勤務）
〇内容

講座では、まず白さんが日本に来て直面した困難や日本語を学ぼうと決心した出来事などをお話していただいき、横浜市役所のことや公務員になろうと思ったきっかけ、公務員になってからのお仕事内容などワークキャリアについてお聞きしました。その後ライフキャリアである白さんが行っている多文化共生のための活動のお話をお聞きし、グループワークを行いました。そこでは、外国につながる子どもたちが抱える多くの課題についても知ることができました。

企画者側からの視点

白さんの行動力や持ち前の明るさ、笑顔、困難があっても立ち向かう強さなどが印象に残った学生が多く、みんなの気持ちを前向きにすることができた講座になったと思います！
今回の講座を企画・運営してみての反省点は、元々考えていた内容が盛りだくさんで時間内に全てをやりきることができず、対面での質疑応答や感想の時間を十分に取ることができませんでした。しかし、残りの時間を見ながらそれぞれが臨機応変に対応し、講座自体は時間内に終了させることができたので良かったと思います。他にも、授業時間以外で話し合いを行ったり、連絡を取り合ったり、良いチームワークで講座を企画することができました。何より、みんなの笑顔をたくさん引き出せた講座を作り上げることができて嬉しかったです！
（人間科学部３年　M.N）